

## 3.5 合成関数の微分法

次のことが基本になる：変数  $x$  の関数  $y = \psi(x)$  について， $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $y$  の増分  $\Delta y$  は

$$\Delta y = \Delta\psi(x) = \psi(x + \Delta x) - \psi(x) ;$$

関数  $y$  の導関数は

$$\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} .$$

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について,  $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする.  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある.

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について,  $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする.  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある. 変数  $x$  に対して, 変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき, 変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく.

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき、  $\varphi(x + \Delta x) \rightarrow \varphi(x)$  なので  $\Delta t = \Delta\varphi(x) = \varphi(x + \Delta x) - \varphi(x) \rightarrow 0$  .



微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき、  $\varphi(x + \Delta x) \rightarrow \varphi(x)$  なので  $\Delta t = \Delta\varphi(x) = \varphi(x + \Delta x) - \varphi(x) \rightarrow 0$  .

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \frac{dy}{dt} , \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dt}{dx} .$$

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき、  $\varphi(x + \Delta x) \rightarrow \varphi(x)$  なので  $\Delta t = \Delta\varphi(x) = \varphi(x + \Delta x) - \varphi(x) \rightarrow 0$  .

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \frac{dy}{dt}, \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dt}{dx} .$$

$\Delta x \rightarrow 0$  のとき  $\frac{\Delta y}{\Delta t}$ ,  $\frac{\Delta t}{\Delta x}$  の極限值があるので、  $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \frac{\Delta t}{\Delta x}$  と考える。

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき、  $\varphi(x + \Delta x) \rightarrow \varphi(x)$  なので  $\Delta t = \Delta\varphi(x) = \varphi(x + \Delta x) - \varphi(x) \rightarrow 0$  .

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \frac{dy}{dt}, \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dt}{dx} .$$

$\Delta x \rightarrow 0$  のとき  $\frac{\Delta y}{\Delta t}$ ,  $\frac{\Delta t}{\Delta x}$  の極限值があるので、  $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \frac{\Delta t}{\Delta x}$  と考える。

$$\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \frac{\Delta t}{\Delta x} \right) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx}$$

微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について、 $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとする。  $\varphi$  と  $f$  との合成関数がある。 変数  $x$  に対して、変数  $t$  を  $t = \varphi(x)$  とおき、変数  $y$  を  $y = f(t)$  とおく。  $x$  の増分  $\Delta x$  に対する  $t$  の増分を  $\Delta t$  とおき  $y$  の増分を  $\Delta y$  とおく。  $\Delta t$  は 0 にならないとする。 合成関数  $y = f(t) = f(\varphi(x))$  の導関数  $\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x}$  を考える。  $\varphi(x)$  は微分可能なので連続である。  $\Delta x \rightarrow 0$  のとき、  $\varphi(x + \Delta x) \rightarrow \varphi(x)$  なので  $\Delta t = \Delta\varphi(x) = \varphi(x + \Delta x) - \varphi(x) \rightarrow 0$  .

$$\lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \lim_{\Delta t \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} = \frac{dy}{dt} , \quad \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dt}{dx} .$$

$\Delta x \rightarrow 0$  のとき  $\frac{\Delta y}{\Delta t}$  ,  $\frac{\Delta t}{\Delta x}$  の極限值があるので、  $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \frac{\Delta t}{\Delta x}$  と考える。

$$\frac{dy}{dx} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \left( \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \frac{\Delta t}{\Delta x} \right) = \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta t} \cdot \lim_{\Delta x \rightarrow 0} \frac{\Delta t}{\Delta x} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx}$$

つまり

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$y = f(t)$  なので,  $\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx}f(t)$  ,  $\frac{dy}{dt} = \frac{d}{dt}f(t)$  , よって

$$\frac{d}{dx}f(t) = \frac{d}{dt}f(t) \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$y = f(t)$  なので,  $\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx}f(t)$  ,  $\frac{dy}{dt} = \frac{d}{dt}f(t)$  , よって

$$\frac{d}{dx}f(t) = \frac{d}{dt}f(t) \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$\Delta t$  が 0 にならないことを前提にしたが, この前提がなくても上の等式は成り立つ.

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$y = f(t)$  なので,  $\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx}f(t)$  ,  $\frac{dy}{dt} = \frac{d}{dt}f(t)$  , よって

$$\frac{d}{dx}f(t) = \frac{d}{dt}f(t) \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$\Delta t$  が 0 にならないことを前提にしたが, この前提がなくても上の等式は成り立つ.

**定理** 微分可能な関数  $\varphi$  と  $f$  について,  $\varphi$  の値域が  $f$  の定義域に含まれるとき, 変数  $x, t$  を  $t = \varphi(x)$  とおくと,

$$\frac{d}{dx}f(t) = \frac{d}{dt}f(t) \cdot \frac{dt}{dx} .$$



**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 微分公式  $\frac{d}{dx} \sin x = \cos x$  を適用できるのは,  $\frac{d}{dx}$  の横線の下側の変数  $x$  が  $\sin$  の中身と一致するときである.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 微分公式  $\frac{d}{dx} \sin x = \cos x$  を適用できるのは,  $\frac{d}{dx}$  の横線の下側の変数  $x$  が  $\sin$  の中身と一致するときである.

$$\frac{d}{dx} \sin x = \cos x, \quad \frac{d}{dt} \sin t = \cos t.$$

一致                      一致

なので, 変数  $x$  の関数  $f(x) = \sin t$  の導関数

$$f'(x) = \frac{d}{dx} f(x) = \frac{d}{dx} \sin t$$

を計算するには, このままでは微分公式  $\frac{d}{dx} \sin x = \cos x$  を適用できない.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 公式  $\frac{d}{dx}g(t) = \frac{d}{dt}g(t) \cdot \frac{dt}{dx}$  において  $g(t) = \sin t$  とおく:

$$\frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx}$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 公式  $\frac{d}{dx}g(t) = \frac{d}{dt}g(t) \cdot \frac{dt}{dx}$  において  $g(t) = \sin t$  とおく:

$$\frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 公式  $\frac{d}{dx}g(t) = \frac{d}{dt}g(t) \cdot \frac{dt}{dx}$  において  $g(t) = \sin t$  とおく:

$$\frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = 3x + 2$  なので,  $\cos t = \cos(3x + 2)$ ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx}(3x + 2) = 3$ , よって,

$$\cos t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos(3x + 2) \cdot 3 = 3 \cos(3x + 2) .$$



**例** 実数全体を定義域とする関数  $f$  を  $f(x) = \sin(3x + 2)$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = 3x + 2$  とおく.  $f(x) = \sin(3x + 2) = \sin t$  を微分する. 公式  $\frac{d}{dx}g(t) = \frac{d}{dt}g(t) \cdot \frac{dt}{dx}$  において  $g(t) = \sin t$  とおく:

$$\frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = 3x + 2$  なので,  $\cos t = \cos(3x + 2)$ ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx}(3x + 2) = 3$ , よって,

$$\cos t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos(3x + 2) \cdot 3 = 3 \cos(3x + 2) .$$

故に

$$f'(x) = \frac{d}{dx} \sin t = \cos t \cdot \frac{dt}{dx} = 3 \cos(3x + 2) .$$

終

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos \frac{4x+5}{3}$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos \frac{4x+5}{3}$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{4x+5}{3}$  とおく.  $y = \cos \frac{4x+5}{3} = \cos t$  なので

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos \frac{4x+5}{3}$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{4x+5}{3}$  とおく.  $y = \cos \frac{4x+5}{3} = \cos t$  なので

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} \cos t = \frac{d}{dt} \cos t \cdot \frac{dt}{dx} = -\sin t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$$\frac{d}{dx} f(t) = \frac{d}{dt} f(t) \cdot \frac{dt}{dx}$$

**例** 変数  $x$  の関数  $y = \cos \frac{4x+5}{3}$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{4x+5}{3}$  とおく.  $y = \cos \frac{4x+5}{3} = \cos t$  なので

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} \cos t = \frac{d}{dt} \cos t \cdot \frac{dt}{dx} = -\sin t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = \frac{4x+5}{3}$  なので,  $\sin t = \sin \frac{4x+5}{3}$ ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx} \frac{4x+5}{3} = \frac{4}{3}$ , よって,

$$-\sin t \cdot \frac{dt}{dx} = -\sin \frac{4x+5}{3} \cdot \frac{4}{3} = -\frac{4}{3} \sin \frac{4x+5}{3} .$$

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos \frac{4x+5}{3}$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{4x+5}{3}$  とおく.  $y = \cos \frac{4x+5}{3} = \cos t$  なので

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} \cos t = \frac{d}{dt} \cos t \cdot \frac{dt}{dx} = -\sin t \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = \frac{4x+5}{3}$  なので,  $\sin t = \sin \frac{4x+5}{3}$ ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx} \frac{4x+5}{3} = \frac{4}{3}$ , よって,

$$-\sin t \cdot \frac{dt}{dx} = -\sin \frac{4x+5}{3} \cdot \frac{4}{3} = -\frac{4}{3} \sin \frac{4x+5}{3} .$$

故に

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} \cos t = -\sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{4}{3} \sin \frac{4x+5}{3} .$$

終

**問3.5.1**  $\frac{7x-5}{3}$  が  $\frac{\pi}{2}$  の奇数倍でない実数  $x$  の全体を定義域とする関数  $f$  を

$f(x) = \tan \frac{7x-5}{3}$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t =$                       とおく.  $f(x) = \tan \frac{7x-5}{3} =$                       .

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{d}{dx} f(x) = \frac{d}{dx} \quad = \frac{d}{dt} \quad \cdot \frac{dt}{dx} \\ &= \quad \cdot \frac{d}{dx} \end{aligned}$$

**問3.5.1**  $\frac{7x-5}{3}$  が  $\frac{\pi}{2}$  の奇数倍でない実数  $x$  の全体を定義域とする関数  $f$  を

$f(x) = \tan \frac{7x-5}{3}$  と定める.  $f$  の導関数  $f'$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t = \frac{7x-5}{3}$  とおく.  $f(x) = \tan \frac{7x-5}{3} = \tan t$  .

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{d}{dx} f(x) = \frac{d}{dx} \tan t = \frac{d}{dt} \tan t \cdot \frac{dt}{dx} \\ &= \sec^2 t \cdot \frac{d}{dx} \frac{7x-5}{3} = \sec^2 \frac{7x-5}{3} \cdot \frac{7}{3} \\ &= \frac{7}{3} \sec^2 \frac{7x-5}{3} . \end{aligned}$$

終



**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 各  
実数  $x$  について,  $x^2 - 5x + 7 = \left(x - \frac{5}{2}\right)^2 + \frac{3}{4} \geq \frac{3}{4} > 0$  なので,  
 $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  の値がある.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = x^2 - 5x + 7$  とおく.  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7) = \ln t$  なので

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = x^2 - 5x + 7$  とおく.  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7) = \ln t$  なので

$$g'(x) = \frac{d}{dx}g(x) = \frac{d}{dx}\ln t = \frac{d}{dt}\ln t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} .$$
$$\frac{d}{dx}f(t) = \frac{d}{dt}f(t) \cdot \frac{dt}{dx}$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = x^2 - 5x + 7$  とおく.  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7) = \ln t$  なので

$$g'(x) = \frac{d}{dx}g(x) = \frac{d}{dx}\ln t = \frac{d}{dt}\ln t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = x^2 - 5x + 7$  なので,  $\frac{1}{t} = \frac{1}{x^2 - 5x + 7}$  ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx}(x^2 - 5x + 7) = 2x - 5$  ,

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = x^2 - 5x + 7$  とおく.  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7) = \ln t$  なので

$$g'(x) = \frac{d}{dx}g(x) = \frac{d}{dx}\ln t = \frac{d}{dt}\ln t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = x^2 - 5x + 7$  なので,  $\frac{1}{t} = \frac{1}{x^2 - 5x + 7}$  ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx}(x^2 - 5x + 7) = 2x - 5$  ,

よって

$$\frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{x^2 - 5x + 7} \cdot (2x - 5) = \frac{2x - 5}{x^2 - 5x + 7} .$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $g$  を  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7)$  と定める. 関数  $g$  の導関数  $g'$  を求める.

変数  $t$  を  $t = x^2 - 5x + 7$  とおく.  $g(x) = \ln(x^2 - 5x + 7) = \ln t$  なので

$$g'(x) = \frac{d}{dx}g(x) = \frac{d}{dx}\ln t = \frac{d}{dt}\ln t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = x^2 - 5x + 7$  なので,  $\frac{1}{t} = \frac{1}{x^2 - 5x + 7}$ ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx}(x^2 - 5x + 7) = 2x - 5$ ,

よって

$$\frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{x^2 - 5x + 7} \cdot (2x - 5) = \frac{2x - 5}{x^2 - 5x + 7} .$$

故に

$$g'(x) = \frac{d}{dx}\ln t = \frac{1}{t} \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{2x - 5}{x^2 - 5x + 7} .$$

**終**



問3.5.2 変数  $x$  の関数  $y = \ln(3x^2 - 7x + 5)$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t =$  とおく.  $y = \ln(3x^2 - 7x + 5) =$  なので,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} = \frac{d}{dt} \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx} ( \quad )$$

**問3.5.2** 変数  $x$  の関数  $y = \ln(3x^2 - 7x + 5)$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t = 3x^2 - 7x + 5$  とおく.  $y = \ln(3x^2 - 7x + 5) = \ln t$  なので,

$$\begin{aligned}\frac{dy}{dx} &= \frac{d}{dx} \ln t = \frac{d}{dt} \ln t \cdot \frac{dt}{dx} = \frac{1}{t} \cdot \frac{d}{dx} (3x^2 - 7x + 5) \\ &= \frac{1}{3x^2 - 7x + 5} \cdot (6x - 7) \\ &= \frac{6x - 7}{3x^2 - 7x + 5} .\end{aligned}$$

終

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos^4 x$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

例 変数  $x$  の関数  $y = \cos^4 x$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \cos x$  とおく.  $y = (\cos x)^4 = t^4$  なので,

**例** 変数  $x$  の関数  $y = \cos^4 x$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \cos x$  とおく.  $y = (\cos x)^4 = t^4$  なので,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} t^4 = \frac{d}{dt} t^4 \cdot \frac{dt}{dx} = 4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$$\frac{d}{dx} f(t) = \frac{d}{dt} f(t) \cdot \frac{dt}{dx}$$

**例** 変数  $x$  の関数  $y = \cos^4 x$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \cos x$  とおく.  $y = (\cos x)^4 = t^4$  なので,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx}t^4 = \frac{d}{dt}t^4 \cdot \frac{dt}{dx} = 4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = \cos x$  なので,  $t^3 = (\cos x)^3 = \cos^3 x$  ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx} \cos x = -\sin x$  , よって

$$4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} = 4\cos^3 x \cdot (-\sin x) = -4\sin x \cos^3 x .$$

**例** 変数  $x$  の関数  $y = \cos^4 x$  の導関数  $\frac{dy}{dx}$  を求める.

変数  $t$  を  $t = \cos x$  とおく.  $y = (\cos x)^4 = t^4$  なので,

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} t^4 = \frac{d}{dt} t^4 \cdot \frac{dt}{dx} = 4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} .$$

$t = \cos x$  なので,  $t^3 = (\cos x)^3 = \cos^3 x$  ,  $\frac{dt}{dx} = \frac{d}{dx} \cos x = -\sin x$  , よって

$$4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} = 4\cos^3 x \cdot (-\sin x) = -4\sin x \cos^3 x .$$

故に

$$\frac{dy}{dx} = \frac{d}{dx} t^4 = 4t^3 \cdot \frac{dt}{dx} = -4\sin x \cos^3 x .$$

**終**

**問3.5.3** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を  $\psi(x) = \sin^3 x$  と定める. 関数  $\psi$  の導関数  $\psi'$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t = \sin x$  とおく.  $\psi(x) = (\sin x)^3 = t^3$  なので,

$$\psi'(x) = \frac{d}{dx}\psi(x) = \frac{d}{dx} t^3 = \frac{d}{dt} t^3 \cdot \frac{dt}{dx} = 3t^2 \cdot \frac{d}{dx} \sin x$$



**問3.5.3** 実数全体を定義域とする関数  $\psi$  を  $\psi(x) = \sin^3 x$  と定める. 関数  $\psi$  の導関数  $\psi'$  を求めよ.

変数  $t$  を  $t = \sin x$  とおく.  $\psi(x) = (\sin x)^3 = t^3$  なので,

$$\begin{aligned}\varphi'(x) &= \frac{d}{dx}\varphi(x) = \frac{d}{dx}t^3 = \frac{d}{dt}t^3 \cdot \frac{dt}{dx} = 3t^2 \cdot \frac{d}{dx}\sin x = 3(\sin x)^2 \cos x \\ &= 3\sin^2 x \cos x .\end{aligned}$$

終

関数  $f$  の定義域の要素  $a$  における  $f$  の微分係数は、 $f$  の導関数  $f'$  の  $a$  に対する値  $f'(a)$  であった.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3}$  の  $\pi$  における微分係数を求める.

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3}$  の  $\pi$  における微分係数を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{5x + 8\pi}{3}$  とおく.  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3} = \cos t$  なので,

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3}$  の  $\pi$  における微分係数を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{5x + 8\pi}{3}$  とおく.  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3} = \cos t$  なので,

$$\begin{aligned}\psi'(x) &= \frac{d}{dx} \psi(x) = \frac{d}{dx} \cos t = \frac{d}{dt} \cos t \cdot \frac{dt}{dx} \\ &= -\sin t \cdot \frac{d}{dx} \frac{5x + 8\pi}{3} = -\sin \frac{5x + 8\pi}{3} \cdot \frac{5}{3} \\ &= -\frac{5}{3} \sin \frac{5x + 8\pi}{3} .\end{aligned}$$

**例** 実数全体を定義域とする関数  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3}$  の  $\pi$  における微分係数を求める.

変数  $t$  を  $t = \frac{5x + 8\pi}{3}$  とおく.  $\psi(x) = \cos \frac{5x + 8\pi}{3} = \cos t$  なので,

$$\begin{aligned}\psi'(x) &= \frac{d}{dx} \psi(x) = \frac{d}{dx} \cos t = \frac{d}{dt} \cos t \cdot \frac{dt}{dx} \\ &= -\sin t \cdot \frac{d}{dx} \frac{5x + 8\pi}{3} = -\sin \frac{5x + 8\pi}{3} \cdot \frac{5}{3} \\ &= -\frac{5}{3} \sin \frac{5x + 8\pi}{3} .\end{aligned}$$

$\pi$  における  $\psi(x)$  の微分係数は

$$\begin{aligned}\psi'(\pi) &= -\frac{5}{3} \sin \frac{5\pi + 8\pi}{3} = -\frac{5}{3} \sin \frac{13\pi}{3} \\ &= -\frac{5}{3} \sin \left( \frac{13\pi}{3} - 4\pi \right) = -\frac{5}{3} \sin \frac{\pi}{3} = -\frac{5}{3} \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} \\ &= -\frac{5\sqrt{3}}{6} .\end{aligned}$$

**問3.5.4** 実数全体を定義域とする関数  $\varphi(x) = \sin \frac{7x + 8\pi}{3}$  の  $\frac{\pi}{2}$  における微分係数を求めよ.

変数  $t$  を  $t =$                       とおく.

$$\varphi'(x) = \frac{d}{dx} \sin \frac{7x + 8\pi}{3} =$$

$\frac{\pi}{2}$  における  $\varphi$  の微分係数は

$$\varphi'\left(\frac{\pi}{2}\right) =$$

**問3.5.4** 実数全体を定義域とする関数  $\varphi(x) = \sin \frac{7x + 8\pi}{3}$  の  $\frac{\pi}{2}$  における微分係数を求めよ.

変数  $t$  を  $t = \frac{7x + 8\pi}{3}$  とおく.

$$\begin{aligned}\varphi'(x) &= \frac{d}{dx} \sin \frac{7x + 8\pi}{3} = \frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot \frac{d}{dx} \frac{7x + 8\pi}{3} \\ &= \frac{7}{3} \cos \frac{7x + 8\pi}{3} .\end{aligned}$$

$\frac{\pi}{2}$  における  $\varphi$  の微分係数は

$$\varphi'\left(\frac{\pi}{2}\right) =$$



**問3.5.4** 実数全体を定義域とする関数  $\varphi(x) = \sin \frac{7x + 8\pi}{3}$  の  $\frac{\pi}{2}$  における微分係数を求めよ.

変数  $t$  を  $t = \frac{7x + 8\pi}{3}$  とおく.

$$\begin{aligned}\varphi'(x) &= \frac{d}{dx} \sin \frac{7x + 8\pi}{3} = \frac{d}{dx} \sin t = \frac{d}{dt} \sin t \cdot \frac{dt}{dx} = \cos t \cdot \frac{d}{dx} \frac{7x + 8\pi}{3} \\ &= \frac{7}{3} \cos \frac{7x + 8\pi}{3} .\end{aligned}$$

$\frac{\pi}{2}$  における  $\varphi$  の微分係数は

$$\begin{aligned}\varphi'\left(\frac{\pi}{2}\right) &= \frac{7}{3} \cos \frac{7 \cdot \frac{\pi}{2} + 8\pi}{3} = \frac{7}{3} \cos \frac{23\pi}{6} = \frac{7}{3} \cos\left(-\frac{\pi}{6}\right) = \frac{7}{3} \cos \frac{\pi}{6} \\ &= \frac{7\sqrt{3}}{6} .\end{aligned}$$

終